

キヌタレガイ *Solemya pusilla* Gould

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖の水深5–20 mの泥底より採集されるが、個体数は少ない(木村, 1996;木村, 2000)。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長約 10 mm の円筒形の貝で殻質は非常に薄い。殻は石灰分が少なく非常に軽い。殻皮はやや厚く表面は光沢が強く、殻の腹縁を越えて延長する。



知多半島内海沖(ドレッジ水深 8–10 m), 2007 年 8 月 8 日, 木村昭一採集 (上段: 生体, 下段: 乾燥標本)

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように三河湾湾口部、知多半島伊勢湾側の潮下帯の泥底に分布する。県内では本種が潮間帯に生息する場所は確認されていない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道南部から九州まで分布する (木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。鰓には硫化水素を用いて有機物を合成する化学合成細菌が共生している(木村, 2012)。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3–19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18–20.

木村昭一, 2012. キヌタレガイ, p. 106. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)